

体の仕組み、寸劇や紙芝居で“説明”

「アカデミックスキルⅠ」小学生想定し1年生熱演

1年次生の必修科目「アカデミックスキルⅠ」で、「小学生に体の一部を説明しよう」をテーマとしたプレゼンテーション発表会が、7月の第1週からスタートしました。50周年記念館で、学科ごとに計6回、7月の第3週まで実施予定。4～5人編成の各班が5分間の持ち時間の中で、寸劇、紙芝居などを通しアイデア溢れる発表を行い、会場を沸かせました。

小学生に伝えることを想定し、発表内容の準備から表現までの一連の活動を通すことで、わかりやすく「伝える」ための基本の型を身につけるのが狙い。発表会では、「ギャルと優等生の物語～日焼け編～」、「私たちはまつ毛調査隊!」、「We Will Cut TUME」、「マッスル! マッスル! 筋肉の働く時間ってどれくらい?」といったユニークなタイトルが目白押し。凝った小道具や衣装も次々と登場しました。

リーダー学生を務めている医学検査学科の柴山紗恵子さん、遠山光哉さん、那須太陽さん、藤田夢叶さん、山路千琴さんの班は、衣装を制服で揃え、ギャル役2人の軽快なトークと、優等生役3人の丁寧な解説を交互に組み込みながら、日焼けのメカニズムと意義について説明しました。課外時間も集まって練習を重ねたというメンバーたちは、「視覚で楽しめるように、役作りと演技には

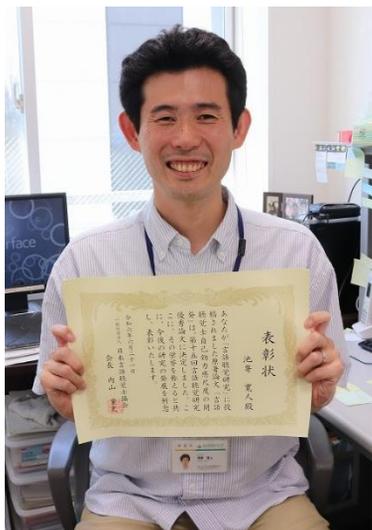
こだわった」と話し、「クラスの皆が楽しんでくれてよかったです」と息を弾ませていました。

優秀と認められた班(複数)は、7月20日(土)に開催される「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」で小学生を前に実演する予定です。(アカデミックスキル支援センター・松尾健志郎)



工夫を凝らした背景や小道具を駆使し、ステージで熱演する学生たち

池寄准教授に優秀論文賞 言語聴覚士協会



優秀論文賞に選ばれ、表彰状を手にする池寄准教授

リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の池寄寛人准教授が、言語聴覚士協会の言語聴覚研究優秀論文賞を受賞しました。同賞は、言語聴覚士協会が編集・発行する『言語聴覚研究』に発表された論文の中で優れた研究を表彰するもので、池寄准教授の論文は2022年3月発行の同誌(19巻1号)に掲載されました。教育研究分野での受賞は初めてで、池寄准教授にとっても初の受賞となりました。

受賞論文は「言語聴覚士自己効力感尺度の開発」。池寄准教授らは、言語聴覚士として必要な特定場面の自己効力感を評価するにあたり、これまで国内外を問わず信頼性、妥当性のある尺度の開発がなされていないことに着目。アン

ケート調査で収集したデータを基に3因子41項目からなる「言語聴覚士自己効力感尺度(ST-SES)」と、15項目の「短縮版自己効力感尺度(ST-SES15)」の2種類の尺度を開発し、信頼性、妥当性を確認しました。

池寄准教授は「(この論文は)畑添涼先生、兒玉成博先生、松原慶吾先生、水本豪先生の誰一人欠けても生まれなかった。4人には感謝しかない」と語った上で、「この尺度を開発しておしまいでなく、卒前卒後教育の研究において学生や若手言語聴覚士の成長や主体的な学びを促すプログラムや教育を続けていきたい」と抱負を語りました。

(入試・広報課)

力作52句「禁煙川柳」

世界禁煙デー（5月31日）と禁煙週間（5月31日～6月6日）にちなみ学生委員会、学友会が学内募集した恒例の「禁煙川柳大会」で、学長賞、学生委員長賞、事務局長賞の三賞が決まり、8日（月）、応接室で表彰式がありました。

5月10日～6月6日の募集期間に学生、教職員から禁煙への想いが詰まった力作計52句が寄せられました。このうち、学長賞に決まったのは、Umeさん（投稿ネーム、医学検査学科1年）の「習慣化 禁煙家庭 子々孫々」。Umeさんは「叔父や父も煙草を吸っており、自分まで吸ってしまうと（子の自分にまで）続いてしまうので、ここで終わらせたいという想いで書きました」と、作品の狙いを語っていました。

このほか、学生委員長賞にはココアシガレットさん（リハビリテーション学科理学療法学専攻3年）、事務局長賞にはリプアイ兵長さん（同言語聴覚学専攻1年）が選ばれました。

表彰式では、竹屋元裕学長、申敏哲学生委員長、河瀬晴夫事務局長が、三賞受賞者に表彰状と副賞のクオカードを手渡しました。なお、大会では学生投票による人気作品も発表されました。（入試・広報課）



竹屋学長（右）から表彰される学長賞のUmeさん

学生投票上位作品

- 1位 入れるな肺 入れた時だけ 気が持ちがハイ (まんちゃん)
- 2位 禁煙後 祖父の口には 爪楊枝 (ドヤコンガ)
- 3位 吸って良い 肺が「いいえ」と訴える (ニコちゃん)

〈事務局長賞〉
灰皿に 咲かせる意思の花一輪 (リプアイ兵長)

〈学生委員長賞〉
吸いません やめたら減ったよ すいません (ココアシガレット)

高度実践看護師の研究能力を強化する研究支援システムの開発と検証

支援ニーズとらえ 臨床実践の質向上を目指す

私は現在、高度実践看護師（Advanced Practice Nurse、以下APN）の研究支援システムのモデルを開発・運用し、効果を検証することを目的として研究を行っています。

APNとは、高い専門性と優れた看護実践能力をもつ看護職者のことで、日本では専門看護師とナースプラクティショナーの資格があります。APNの機能には実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整があり、これらの機能を活用し、病院や施設や地域などで、質の高い看護ケアの実践が行われています。

APNはアメリカでは費用対効果の高い人材として臨床や地域での活用が進んでいますが、日本では専任で働くAPNは3

割、管理者との兼任が4割であり、APNの機能が十分に発揮できる環境であるとは言えない現状があります。私たちのこれまでの調査では、APNの研究機能について、多重業務による研究時間の不足、組織的な支援や資源の不足、研究指導者の不在などの要因があり、研究についての支援ニーズがあることがわかりました。

APN教育課程の中には、修了生への個別の支援が行われている大学院がありますが、研究支援システムとして十分には構築されていない状況にあります。この研究を通して、少しでもAPNの研究活動の支援、ひいては臨床実践の質の向上に寄与できることを願っています。

科研費★★
私の研究

基盤研究(C)
2023-27年

看護学科
江上 史子 講師



世界に論文発信...熊保大学術情報リポジトリ



論文等研究成果のオープンアクセス化が求められています。オープンアクセスにより研究成果の普及やその活用、また情報発信による論文の被引用数の増加なども期待されます。『熊本保健科学大学学術情報リポジトリ』でも本学の研究誌（紀要）やその他申請のあった論文等をオープンアクセス化しています。また、掲載した各論文のダウンロードランキングや閲覧ランキングも見ることができます。

ランキングはそれぞれ10位まで表示していますので是非ご覧ください。図書館ホームページトップ、右上の「インデックス」からご覧ください。

熊本保健科学大学附属図書館 <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/index.html>
また、リポジトリへの登録申請や詳細は、図書館へお尋ねください。



過去1年間で最もダウンロードされたアイテム（1～5位） =2024年7月2日現在（※ダウンロード数）

順位	件数※	タイトル	著者
1	1975	失語症に対する構文の評価法および訓練法の提案～認知言語学的視点から格助詞を中心に～	宮本 恵美, 大塚 裕一ほか
2	1500	我が国におけるユマニチュード実践の現状と課題に関する文献的考察	大坪 昌喜, 角 マリ子
3	1393	運動イメージ能力の個人差とリハビリテーション	小手川 耕平
4	1181	重症心身障害児に対する感覚刺激の役割：生活における作業療法としての感覚刺激の紹介	高田 政夫
5	1158	オンラインによるリッカムプログラムの実施で 改善を認めた幼児吃音の1例	井崎 基博

※熊本保健科学大学学術情報リポジトリ（2024年7月2日）より抜粋



献血に行こう！

学内献血が9日（火）に実施され、正面玄関入り口に熊本県赤十字血液センターの献血車が乗り入れました。熊本県献血推進協議会に参加している学友会役員が企画し、毎年7月と1月の年2回実施しています。この日は学生、教職員57人が献血しました。
(入試・広報課)



インフォメーション

週間行事予定（7月17日～22日）

7/17 (水)	基礎セミナー合同発表会
7/18 (木)	大学訪問（都城西高校）
7/20 (土)	第3回からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学